



避難所開設疑似体験(HUG)



日時：令和5年3月12日（日曜日） 午前9時30分～午後3時00分

場所：大岡地区センター2階大会議室

参加人数：男性5名(コミ防災部・役員)女性部員22名(副常任委員長・女性部含む) 計27名

HUGとは、H(hinanjyo 避難所)、U(unei 運営)、G(game ゲーム)の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられた。今回は新型コロナ対策用に優先順位を決めた避難所開設アクションシートに従って避難所開設の疑似体験をおこないました。

避難所の運営を任された立場となり、学校に見たてた図面に家族構成、年齢、性別、職業、持病の有無など事情の異なる被害者の状況カード配置しました。

避難者カードを配置してさまざまな事情を抱えた避難者が殺到する状況に対処していく模擬体験をすることにより色々な課題がみえてきます。



避難所の状況カードの配置図



避難所開設疑似体験風景



森岡浩子さん(コミ副常任委員長)

地震時と風水害時では避難行動に違いがあります。地震の時は、ほぼ一斉に避難がはじまります。また、建物の倒壊や津波、火災、家具の下敷きなどで多数の死傷者が発生するため、避難者の中には震災孤児や親族を亡くした家族、負傷者なども多数避難してきます。これに対して風水害の時は早めに避難してきた人避難勧告や避難指示を受けて避難してきた人、びしょ濡れで避難してきた人、逃げ遅れ家に取り残されて救出されて来た人など、それぞれ別のタイミングで避難してきます。また地震の時に比べれば負傷者や親族が負傷した避難者が少なくなります。

また避難するかしないかの判断は人によって大きく異なります。早めに自主避難する人もいれば、避難しようとするときはすでに遅かったという人も多く、また夜間の避難は危険を伴うなど地震とは異なる特徴があります。

家庭で取り組むべき主な対策

家具の置き方を工夫していますか
非常用持ち出しバッグ準備出来ていますか
非難場所や避難経路を確認していますか

食料・飲料などの備蓄は十分ですか
安否確認方法は決まっていますか
もしもの時情報収集していますか

防災の為に特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用されている食品等を備えるようにしましょう。各自治会での防災訓練に積極的に参加し防災意識をたかめ、家庭内も災害に備えて家族で話し合しましょう！